

令和7年度第2回 葦崎大村美術館協議会 議事録

【会議の概要】

1	会議の名称	令和7年度第2回 葦崎大村美術館協議会
2	日時	令和8年2月24日（火）午後3時～午後4時
3	場所	葦崎大村美術館 2階 展望室
4	議題	<p>(1) 令和7年度下半期事業報告について</p> <p>① 企画展・館外貸出・作品寄贈について</p> <p>② 教育普及事業について</p> <p>③ 美術館「悠久会」について</p> <p>④ まちなか美術館事業について</p> <p>⑤ 美術館（螢雪寮・茶室）利用状況について</p> <p>(2) 令和8年度上半期事業計画（案）について</p> <p>① 企画展・館外貸出について</p> <p>② 教育普及事業について</p> <p>③ 女子美術大学連携事業について</p> <p>(3) その他</p> <p>① 開館20周年事業について</p> <p>② 大村記念公園について</p> <p>③ 市民展示について</p>
5	出席委員	小倉 文子 会長、林 紘子 副会長、進藤 中 委員、向山 富士雄 委員、三柴 忠宏 委員、駒沢 克昭 委員、篠原 俊明 委員
6	会議の公開区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
7	傍聴人の数	0人
8	出席職員	葦崎大村美術館 館長 大村智、副館長 堀内 洋子、教育長 堀川 薫、生涯学習担当 主幹 佐藤 道平、美術館事務局長 藤巻 明雄、学芸員 若林 美帆、学芸員 中屋敷 美穂、学芸員 降矢 唯、事務局員 平賀 英樹

【協議内容等】

発 言 者	内 容 (要 旨)
事務局	【開会前】 今期は協議会委員の改任期であり、過日通知により再任依頼をし、承諾を得たため、本日、各委員の座席に辞令を配付した。
事務局	【開会】 開会及び司会担当について説明。欠席委員は事前連絡を受けている。
事務局	【進行】 館長、会長に挨拶を依頼。

館長	<p>【挨拶】日頃、委員の皆様には色々な場面でご支援をいただきまして、ありがとうございます。おかげさまで、昨年と比べて入館者がかなり増えております。</p> <p>また、美術館を盛り上げる取り組みの一つとして、機関紙『道路建設』の取材を受けました。これは旅行関係の記事を執筆している写真家の秋山秀一さんから、葦崎は面白い場所だからということで、ご提案をいただいたものです。この取材には2日間かかりました。葦崎大村記念公園のことも掲載されています。『道路建設』は各県に配布されており、宣伝効果を期待しております。</p> <p>今日はぜひ、最後までよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>【挨拶】昨年はお祝い事が続き、私が勤めている女子美術大学も125周年を迎えました。また、大村先生が昨年、卒寿のお祝いとノーベル賞10周年ということで、大勢の方に祝福される会を催され、北里大学の皆様の熱い思いが伝わるお祝いでした。一昨年中、良いことが続いておりますので、今後も続くことを願っております。</p> <p>女子美は今年、大村美術館から作品をお借りし、『堀文子展』を第Ⅰ期・Ⅱ期に分けて、5月末から8月上旬まで開催する予定です。門外不出の《アフガンの王女》についても、連携協同協定に基づく特別の計らいでお借りすることができ、学生たちもすごく刺激を受けると思います。できましたらぜひ、本学にも足をお運びいただきたいと思っております。</p> <p>女子美で収蔵している何倍もの素晴らしい作家の作品がこの大村美術館にあるということで、この秋にも学生たちが来館する計画を立てております。学生だけでなく、教員も一緒に訪れたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>【進行】各委員、教育委員会、美術館副館長に挨拶を依頼。事務局職員の紹介。</p>
事務局	<p>【進行】規則の定めにより会長に議長を依頼。</p>
会長	<p>【議事】審議に入る旨の宣言。出席委員6名で定足数に達している旨を報告。議事署名委員の指名。議題（1）令和7年度下半期事業報告について、事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>【説明】資料に基づき説明。</p>
会長	<p>【議事】説明事項に対し、委員からの質問・意見を求める。</p>
委員 A	<p>【意見】螢雪寮と茶室について、使用料はどのような設定とな</p>

	っていますか。
事務局	<p>【回答】 螢雪寮につきましては、市民の方が4時間毎に500円でご利用いただいております。市外の方は倍額、営利目的での使用はそれぞれ3倍の設定としております。</p> <p>また、茶室につきましては、即翁新座敷が1時間1,000円、悠久庵が700円の設定です。市外の方は倍額となります。茶室につきましては、申請者は茶道の先生に限定しておりますが、利用者の中に市内在住または市内勤務の方が1名でも含まれている場合は、市内料金を適用しております。</p>
委員 B	<p>【意見】 ボランティア（悠久会）の研修会では、無言館は何度か訪れておりますが、今回もとても良かったですし、上田市立美術館も素晴らしいですね。ご案内いただき、ありがとうございました。</p>
会長	<p>【意見】 研修を毎年実施されているので、ここで協力されている方々にとって大変いい機会だと思います、毎年、行き先を気になりながら報告を見ております。</p>
会長	<p>【議事】 令和7年度下半期事業について承認の可否を諮る。</p>
各委員	<p>【議事】 拍手。承認。</p>
会長	<p>【議事】 議題（2）令和8年度上半期事業計画について、事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>【説明】 資料に基づき説明。</p>
会長	<p>【議事】 説明事項に対し、委員からの質問・意見を求める。</p>
各委員	<p>【議事】 特になし。</p>
会長	<p>【議事】 令和8年度上半期事業について承認の可否を諮る。</p>
各委員	<p>【議事】 拍手。承認。</p>
会長	<p>【議事】 議題（3）その他について、事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>【説明】 資料に基づき説明。</p>
会長	<p>【議事】 説明事項に対し、委員からの質問・意見を求める。</p>
委員 A	<p>【意見】 市民展示コーナーについては、無料で展示できるのでしょうか。それとも使用料をご負担いただいているのでしょうか。</p>
事務局	<p>【回答】 市民展示コーナーは1か月単位で実施しており、月初に出展者が作品を搬入し、職員とともに展示作業を行います。月末最終日には撤収を行い、翌日からは次の出展者が展示します。展示に関する作業および展示期間の使用料はすべて無料です。観覧については、出展者には招待券を数枚お渡ししており、一般来館者は入館券を購入して美術館とあわせてご覧いた</p>

	だいています。
委員 A	<p>【意見】 今、色々な美術館に行くと、入館料は取らずにドネーション（寄付）を募っているところがあり、特に海外ではそのような例が多くみられます。キャッシュレスの時代になり、クレジットカードやスマホを使って、簡単に寄付ができる時代になっていますので、この美術館でも、もちろん入館料をお支払いいただいている方にも、寄付をお願いすることも無駄ではないと思います。電子的な機器を設置してドネーションを募る仕組みを導入してはどうかと思います。</p>
委員 C	<p>【意見】 私がアメリカで研修を受けた際、どこの美術館でもドネーションボックスが設置されており、歴史や文化を自分たちが作っているという意識の高さを感じました。私の友人がシアトルの美術館を訪れた際、寄付をし忘れたことに気づき、わざわざ車で戻ったということもあります。文化を作っているという気持ちは、日本ではまだ薄いのではないかと思います。</p> <p>財団との連携事業も大変気になります。</p> <p>ドネーションは非常に重要な話ではありますが、実施には手間や時間もかかります。</p> <p>将来 100 年、200 年と続く美術館を目指すのであれば、市として独自の事業費を確保し、大村先生より寄贈を受けた作品を、今後どのように活かし、膨らませて、育てるかが重要です。</p> <p>例えば、幼稚園の子どもたちを招くなど、このような働きかけを積み重ねることが、最終的には市全体の文化や教育に対する意識の向上につながると考えます。</p> <p>今、テレビを付けても経済の話題しかないので、やはり教育文化に立ち戻り、美術館の運営を含めた議論を深めていただきたいと市に対して思います。</p>
事務局	<p>【回答】 ここでの回答として適切かどうか分かりませんが、財団の現状といたしまして、大村先生のこれまでの功績を称え、ここで展開したい事業を実現するというのが財団の目的と理念です。白山温泉とそば処上小路は財団で管理をしておりますが、収支はまもなく黒字です。黒字になれば、公益化し、この美術館を含めて全体を財団が指定管理する体制へと進めていく方向性です。もう少し時間がかかる見込みですが、その際にはドネーションについても一つのモデルとして、全国・全世界に広げていきたいと考えています。</p>
委員 C	<p>【意見】 ドネーションボックスの設置は可能なのでしょうか。</p>

	(※指定管理ではなく、直営の場合において可能かという趣旨)
委員 A	【意見】 用途を指定した寄付ができるのではないのでしょうか。例えば、災害時には「災害支援のために使用してください」というように、用途を限定した寄付が可能です。同様に、「葦崎大村美術館のために」といった形で、指定した寄付を募ることも可能ではないかと考えます。
事務局	【回答】 可能と思います。例えば、「幸福の小径」の大村博士の銅像ですが、全国に寄付を募りまして、建立しています。また、「わに塚の桜」を元気にしたいということで、市でクラウドファンディングを全国に呼び掛けて、桜を治療したという例もあります。目的をはっきりを持てば、寄付も可能と考えています。
会長	【意見】 文化は皆で育てなければならないという意味でも、こうした取組はきっかけとしても効果があると思います。わずかなお金でも、子どもでも「寄付をした」という経験は心に残るものですので、金額にかかわらず試みるということは、文化を育てる葦崎市としても良いのではないかと思います。
事務局	【回答】 市と教育委員会と相談しながら進めていきたいと思えます。
会長	【議事】 そのほかに、委員からの質問・意見を求める。
委員 C	【意見】 ニコリの地下にギャラリーがありますが、以前、あちらで大村美術館主催の企画展を開催した際には、大村美術館の入館者数として数えてはどうかと提案したことがあります。現状では、大村美術館が大規模な企画展や巡回展を実施することは難しく、コレクションにテーマを付けた自主企画に努力されている点は理解しています。 当該施設と大村美術館が連携し、市で予算がつくのであれば、美術にあまり関心のない一般の方にも来てもらえるような純粋美術ではない展示会を、美術館監修のもと実施することで、一つの事業として捉えることができるのではないかと思います。
事務局	【回答】 以前、ニコリのギャラリーで当館主催の相田みつを氏の展示会、白籟史郎氏の展示会を実施した際は、当館の実績として報告させていただきました。ただ、最近は利用できていません。 サテライトスペースは当館の実績としてカウントしています。教育委員会と相談し、人的な面や予算面がクリアできれば、今

	後、色々な巡回展を開催したいところです。
会長	【意見】本日、会議前にニコリを拝見する予定でしたが休館でした。でも、ニコリを利用している方は多いと感じています。
事務局	【回答】利用者が増えたのは、駐車場を民間業者に委託し、24時間利用できるようになったことが大きいです。駐車場の利用者がニコリへ入館することもあり、総数が増えています。
会長	【意見】これからは、活用することを視野に入れて取り組むということですね。ご意見ありがとうございます。
会長	【議事】議題（3）その他について、承認の可否を諮る。
各委員	【議事】拍手。承認。
会長	【議事】全ての審議を終了。
事務局	【進行】進行を引き継ぐ。副会長に挨拶を依頼。
副会長	【挨拶】南アルプス市美術館館長に、開催中の企画展「土と共に生きる 三井康生展」の紹介を依頼。 （南プス館長より企画展の説明） 三井氏の窯は大村美術館に隣接しており、中には喫茶もあります。美術館に来館した方へもぜひご案内いただけたらと思います。閉会の言葉とさせていただきます。
事務局	【進行】閉会